**「キッズタウンからふるにおける保護者支援の取り組み」**

　　　　　　　　　　　　社会福祉法人こうほうえん

キッズタウンからふる・錦海リハビリテーション病院　言語聴覚士　渡邉真紀

キッズタウンからふる 　　　　　　　　　　　公認心理師　松岡恵美

**1.問題提起**

　児童発達支援事業所は、何らかの発達上の課題がある、またはその疑いのある就学前の子どもが利用している。児童発達支援事業所キッズタウンからふる（以下、当事業所）は10人程度の小集団で、日常生活動作やコミュニケーション訓練などを行い、就学や今後の集団生活に必要な力を身につけられるよう支援している。保護者は、ことばが出ない、コミュニケーションがとりづらい、落ち着きがない、友達とうまく遊べないなどの子どもの特性から、育児に対しストレスを感じている場合が多いと考えられる。

**2.目的**

　当事業所では、利用開始時に保護者の育児ストレスの強さや内容を把握し、早期からの適切な保護者支援につなげるため、「PSI育児ストレスインデックス」(以下PSI)を用いたストレスチェックを行っている。今回、保護者のPSIスコアから、育児ストレスの傾向を把握し、必要と思われる支援について考察する。

**3.方法**

**・対象：**当事業所利用児の保護者

研究の趣旨を説明し、同意が得られた47名分のデータを集計した。47名のうち、未回答の項目があった4名を除外した43名分を分析の対象とした。

**・データ収集方法：**利用開始時にPSIを配布し、記入を依頼した。

PSIとは、親の育児ストレス、親子や家族の問題などをアセスメントし、問題への援助やプログラムの効果を知ることに役立つよう構成された質問紙で、【子ども側面に関わるストレス】38項目(7下位尺度)と【親側面に関わるストレス】40項目(8下位尺度)の計78項目で構成される。「まったく違う」から「まったくそのとおり」の5件法で得点を付け、得点が高いほど育児ストレスが高いことを意味している。

**・分析方法：**PSI標準平均値と保護者平均値とを比較するため、t検定を行った。またPSIスコアのうち、子ども側面に関わるストレス合計と親側面に関わるストレス合計の相関関係も調べた。

**4.成果・課題**

t検定の結果、以下の項目の保護者平均値が、PSI標準平均値より有意に高かった。

【子ども側面にかかわるストレス】

・子どもの機嫌の悪さ ・子どもが期待通りにいかない ・子どもに問題を感じる ・子ども側面に関わるストレス合計（p<0.01）

・子どもの気が散りやすい/多動 ・親に付きまとう/人に慣れにくい(p<0.05)

【親側面に関わるストレス】

・親としての有能さ　・抑うつ・罪悪感(p<0.01)

以上の項目に加え、PSIスコア合計値も有意に高かった（p<0.01）。

相関分析の結果、子ども側面に関わるストレス合計と親側面に関わるストレス合計の間に中程度の正の相関がみられた（r=0.406）。

【子ども側面に関わるストレス】は、「気が散りやすい／多動」などの項目が高く、このような子どもの行動面や性格の特性から、親は「子どもに問題を感じる」「子どもが期待通りにいかない」と感じていると思われる。また、保護者の対応によって子どもが怒ったり泣いたりすることもあり、「子どもの機嫌の悪さ」が高いことにつながると思われる。子どもの特徴に直接かかわる項目よりも、保護者の思いにかかわる項目のストレスが高い傾向にある。そして、【子ども側面に関わるストレス】の総計が高いことから、子どもの特徴に関わるストレスは全般的に高いと言える。

一方、【親側面に関わるストレス】の総計は、標準スコアと比較して有意差がなく、「親としての有能さ」「抑うつ・罪悪感」の項目のみが高いという結果であった。保護者は、子どもに愛着を感じることができるものの、子どもの特徴から、子どもに問題を感じ、期待通りにいかないと思っている。このことが、親としての有能さを感じにくいことや、抑うつ・罪悪感を感じることにつながっていると考えられる。

このことから、保護者支援における当事業所の役割として、まずは子どもの特徴に関わるストレスを減らすことが考えられる。子どもを適切に評価し、目標を達成するためのスモールステップを組みながら、どうしたらうまくいくのかを保護者と一緒に考えて取り組むことで、前向きな気持ちになれるように支援することが必要である。有効な支援を行うことで子どもの姿がかわり、それを保護者が実感することで心理的な負担を軽減できると考える。また、必要な環境調整や、子どもに合わせたかかわり方など、家庭で取り組めることを具体的に伝えることも、保護者の不安やストレスの軽減につながるのではないかと考える。

　保護者の特徴として抑うつ・罪悪感が高い傾向にある場合は、カウンセリング的対応が必要になる。インターネットなどで簡単に情報が得られる現在は、保護者が多くの情報に触れ、自分の子どもと他の子どもを比較して保護者の理想が高くなりがちであることも影響していると思われる。自分の理想と実際の子どもの姿の不一致から、親としての有能さを感じにくく、子どもの問題を強く感じてしまっている可能性もある。子どもの成長を喜び合うだけでなく、「子育てが思うようにいかない」と悩んでいる保護者の頑張りをしっかりと認め、精神的にも支える体制をつくることが重要である。

今回、利用開始時の保護者のストレスについて分析し、必要とされる保護者支援について考察した。当事業所は、保育士のほか公認心理師、言語聴覚士、作業療法士などの専門的知識をもつ職員を配置しており、公認心理師を中心に、子どもの様子や保護者の状況をふまえた適切な相談対応ができるように、職員間で常に情報を共有し、対応について話し合っている。また、保護者が相談しやすいよう、メール相談に対応したり、保護者のニーズに合わせて面談できるようにしている。そして、保育所等訪問支援事業を利用して所属園と連絡を取り合い、園と共通の支援を行っている。当事業所での保護者支援の取り組みにより、保護者の育児ストレスがどのように変化したかということについては今後の研究課題としたい。